

信長と烈女

帝キネ

時代映畫

原作兼脚色者 江左卦 吞兵衛
監督者 江左卦 岳翠
撮影者 高橋武則

主要役割

織田上總介信長 嵐 狂藏
大村清兵衛 前田大千代
五郎左衛門妻彌生 尾崎小福
葛山備中守 實川延笑子
淺井小四郎 駒下川信
九根太郎左衛門 市川綱十郎
平手五郎左衛門 松葉恒清
侍女瑠璃 飯岡豊前
飯岡豊前 天野清
鷺津伴助 野恒清

寫眞 「信長と烈女」 帝キネ 江後岳翠作品
左が中村小福。



飯尾八郎 矢倉路四郎
解説——江後岳翠氏の「忍術藤栗毛」につづく監督作品である。
略筋——四隣に威を振ふ信長も弟信行等の叛逆の爲めに心を悩ませる頃のことであつた。或日墓参の歸途笠寺城主葛山備中守等に襲はれたが、その時忠臣平手五郎左衛門は備中守のために無念の最後を遂げた。以来平手の妻彌生は大村等に守られて隠れ住まひ、瑠璃は信長の清州城内に引取られて恨を報ゆる時機を待つてゐた。瑠璃は或夜城内に潜む備中守の問者を女の腕に仕す程の烈女であつた。その頃備中守は信長の領内に於て狼籍を働きた兼て不倫の想を

寄せてゐた彌生を飯岡豊前をして拉し來らしめた。瑠璃は豊前をわざと名も楓と改めて笠寺城内奥深くつこめ、たま／＼備中守誕生祝ひの饗宴の開かれるを知つて密かに信長に知らせその當夜前田大千代中務左金吾初め家來を引具して駆けつけた信長の助けを得て備中守及び豊前守を併し母彌生を救ひ出した。そして信長と烈女は敵城の炎を望んで歡喜の聲を擧げた。